

NPO 法人住まいのホームドクター／設計者の会
460-0006 名古屋市中区葵 1-27-32 カイフビル 7階

HD ニュース

No.17
2014.5.15

今後の予定／於：事務局会議室

- 5月15日(木)18:30～ 木造技術研究会
- 5月20日(火)18:00～ マンション大規模修繕研究会
- 5月20日(火)19:00～ 研修会
- 6月10日(火)19:00～ 役員会
- 6月17日(火)18:00～ 相談委員会
- 6月17日(火)19:00～ 研修会

欠陥マンション問題から改めて建築家職能を考える

理事長 滝井幹夫

東京南青山の高級マンションの欠陥工事が露見し、契約解除、建物解体が決まりました。いくつかの週刊誌と大手マスコミの報道は何故か少ないのですが、いずれも本質に触れた報道が殆どありません。

報道によれば、このマンションの事業主は三菱レジデンス、設計監理は三菱地所設計、施工は鹿島建設で夫々が日本を代表する巨大企業ですが、約6000本のスリーブのうち、600本が未設置と位置に間違いがあった上に、コア抜きによる鉄筋切断箇所もあった。

早い段階で設備施工者から元請に報告がありながら対策がとられず、完成間際のインターネット掲示板への書き込みで発覚しました。

私たち専門設計者は設計の段階でスリーブの吟味を行ない、施工図作成時に詳細な検討が行われ、元請、工事監理者のチェックを経て確定する。施工中も元請、工事監理者の検査・監理を随時行うことで

このような大きなミスを防いでいます。

本件マンションは、形だけは建築主（事業主）、設計監理者、施工者が独立していますが、建築主と設計監理者は同じ三菱グループに属し、施工者が設計上のカバー・支援を行うことがしばしばで、「マンション販売による利益追求」と言う、広義の利益共同体であることが設計監理者を始め、夫々の独立性を弱くしています。

それが、何重にも行われるはずのチェック機能を喪失し、今回の事態を引き起こしたことの本質だと思います。

同じように、欠陥マンションは三井不動産と清水建設、積水ハウスと大成建設・熊谷組の組み合わせでも、最近相次いで発生しています。形だけでなく、内実の伴った第三者性、独立性を保った設計監理者業務の大切さを改めて感じています。

田邊先生追悼「生涯現役」気迫無常

副理事長 新野修一

田邊先生がご逝去されて2カ月になろうとしている。HDニュースのNo.16には先生の間違った建築や若い仲間との語らいの様子が掲載され、在りし日が偲ばれる。

先生は建築家としての生き方を求め、それを実践された方である。先生の目指された建築家は建築設計監理に関する高い専門性や公共性を提供する職能を有する者であり、そのプロフェッショナルサービスは設計事務所と関わる行政や企業や個人のみならず、設計事務所と関わることなく住まいを得ようとする方々にも向けられていた。それがこの会との関わりである。世の中の不合理や不平等に異議を唱え、ご自分の目の位置から相手を見ることなく、相手の目の高さに気を配り、全体と相手の立場を慮るゆと

りを持ち、経験や経歴で人を見ず、話上手というより聞き上手で、穏やかに聞かれていたかと思うと「私はそうは思いませんぞ！」と突然にご意見を述べられ、こちらは戸惑い面喰った。「ホームドクターの黄門さまです」と申し上げるとまんざらでもない表情をされていた。「建築は構造からじゃ」「みんな知らんのう」と言われたことが忘れられず、私の立ち位置を見直すきっかけを頂いた。失礼な言い方もしませんが、遠慮なく気楽に時を共有させて頂いた、気持のよい尊敬する大先輩でした。

3月22日(土)午前11時過ぎに事務局の小川さんと、入院されていた笠松町の松波総合病院を見舞った。先生は我々に気付くことなく寝てみえた。ご家族は不在で病状を窺うことは出来なかったが、素人

の勝手な印象を述べれば、顔色はよく、つやもあり、回復を期待させてくれていた。翌日、田辺事務所に長年勤務した桜井さんと「これからだね」というメールのやり取りをした。その3日後に訃報が届くこととなる。驚きの後、感謝と悔いが多い思い出と共に残った。個人的には酒を肴によく付き合っていた。ホームドクターの会合の後のみならず、JRタワーで待ち合わせして大名古屋ビルの地下の居酒屋で幾度となく飲んだ。先生の体調を考慮し、昨年4月下旬岐阜駅で待ち合わせをして、駅の2階の居酒屋でのひと時が元気な先生にお会いする最後となった。次回の約束をしながらこちらの都合で延期して頂いた。悔みます。思い出の大名古屋ビルは再

生のために解体され、今は工事中です。諸行無常。「思い」も無常です。しかし、先生の目指された「生涯現役」という「思い」を静かで深い「気迫」として受け止め、「いやあー今日は楽しかった！いい酒じゃった！ありがとう！」と言われた笑顔と穏やかな気持を私も抱いて過ごせますように、残された時間を満たしていきたいと思っております。少しでもホームドクターのみならず建築設計が世の中で認められますように。先生のご遺志を継いで「生きて大業の見込みあらばいつでも生くべし」との思いで生きて参ります。大業の見込みを願って。田邊先生ありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。

自然塗料、天然素材の勉強会

研修会委員長 津島勝弥

先日、4月14日、大阪からプラネットジャパンの中村 梓さんを招き、自然塗料と天然素材についての研修会を実施しました。今回は、サンプルやカタログを用いた商品紹介や解説を受けるばかりではなく、自分たちで塗材を実際に木材に塗ってみてその特性や注意点を確認しようという趣旨なので、見本だけでなく木材や板の端材、道具も用意しての開催でした。ここでは、研修会の様子を交えてレポートします。

自然塗料の「プラネットカラー」は、ドイツの自然塗料メーカーのクライデツァイト社とプラネットジャパンが共同開発した商品で、日本の建築や家具材に使われることの多い樹種の性質を理解したうえで製造されています。(実際の木材をドイツに送っています。)同種の自然塗料「オスモ」や「アウロ」がドイツで製造した塗料のままを販売しているだけであることから、これら先行メーカーの塗料よりも日本で使われる木(無垢材)の特徴を最大限に引き出せるということです。

内装塗り壁材の「プラネットウォール」は、クライデツァイト社が昔ながらの製法でつくった調湿、耐火性に優れた壁材(ドイツ本漆喰)で、下地材としてコバウ紙(ドイツ紙下地)を使用して施工します。ボード壁で使用の際、この紙がジョイント部の割れを防ぐということです。

昨今、建築主、設計者自身が塗り壁や塗料をあと

施工するケースがリフォームとともに増えています。コテを使わないので扱いも難しくなく、塗り方を工夫して楽しむことができる材料です。

機会があれば、また実施したいと思います。

詳しい商品の問い合わせは、プラネットジャパン(06-6396-4722)の中村さんまでどうぞ。



【写真左】塗り方の解説を受けながら(刷毛ではなくウエスで刷り込む感じ…)、プラネットカラー(着色タイプ)の1回塗り、2回塗りの違いをみる。着色系塗料は、内装外装兼用です。ウエスの他に、塗る道具には、コテバケというものがある。

【写真右】内装塗り壁材プラネットウォールをローラーで塗る。石灰や大理石が主な原料の漆喰なので、解説書には「よく乾かして2回塗る」とあり。

■相談委員会 4/15 18:00~19:00

ヴェルクレート日比野大規模修繕コンサル業務の見積り提出について 等。

■技術研修会 4/15 19:00~21:00

「自然塗料、天然素材」講師/株プラネットジャパン 中村 梓 氏